

安全推進室だよ！ Vol11

トップダウンだけではコミュニケーションは生まれない
～取組事例の紹介（船舶編）～

海事モードも事故が少なく、取組の結果が見えにくいのですが、一旦事故が発生した時の影響は大きいものがあります。全船の乗組員が一堂に集まることが出来ないうえに、派遣等自社の船員でない場合もありますので、コミュニケーションを図るには工夫が必要となってきます。

船主、荷主、オペレーター、港湾管理者等から各々安全にかかるオーダーがあるので、運航管理者等、安全担当者は取組を共有し、交通整理を行うなど過度な負担を軽減させることも必要です。

【夜間における船陸間通行時の安全確保のための取組】

着岸時の船陸間通行については法令の定めにより歩み板にスタンションやネットの敷設を行い、専用埠頭における転落事故の防止措置を実施している。しかしながら、船舶の喫水と岸壁の高さとの取りあいの関係で十分な転落防止措置を取れない公共埠頭があり、追加安全対策として、万が一、船員の夜間帰船時に踏み外し等による海中転落があった場合に備え、海面に木槌をセットした浮環を浮かべ、落水時に木槌により船体を叩くことで在船している乗組員に気付いてもらい早期救助を可能とすることを期待している。

当該措置は船員にとってさほど手間のかかるものでもなく、対して船員の安心感は非常に大きいことから、特に横付けで着岸することが多く、ハンドレールをまたぐ等不安定な乗下船をすることを余儀なくされる公共埠頭等において実施すべきではないか、との結論が得られた。

夜間の落水は、周囲に人の目がないことから、一つ間違えば死亡事故につながり、実際に同様の状況による死亡事故は後を絶たないが、木槌で船体を叩く、という簡易な方法により在船中の乗組員に気付かせる方法は効果が高いものであるといえる。効果が期待できるとの提案を本社で受け止め、支配下の各船に水平展開を行うことにより、「現場で働く乗組員の信頼を得る事例」と言えます。



【アンケートを活用したコミュニケーションの構築】



船員さんの安全教育としては、ドッグ時に行うことも多く、メーカーから講師を呼んで機材の説明や安全講習会、また、安全統括管理者が安全研修を実施したりしています。

教育終了後にはその内容についての小テストを実施していましたが、結果があまり芳しくないのが、運航管理者と安全担当者等で論議したところ、アンケートのようなもので、

- ① よく理解できたところ ② あまり理解できなかったところ
- ③ 今後受けた研修 ④ 仕事内容について分かりづらいこと
- ⑤ 会社にしてもらいたいこと、話したいこと など、

講習内容の確認もさることながら、一つでも現場の意見を吸い上げることからやってみようという結論となりました。

今までは機材の操作・説明書や安全衛生教育のDVD等、「見ててね」と一方通行であったこと、また、船長からは、今の新人さんは器械操作がデジタル化し、使いやすくなった反面、基本的な作業がよく解っていないとの意見もあり、乗組員の考えを書面で聞いてみることを第一に実施してみることにしました。

その結果、乗組員のリクエストがあがってくることとなり、以前より意思の疎通が図れています。また、①、②については、担当講師にも見てもらい、次回の講習に参考になりますと言っていただいています。今後も現場の意見を多く吸い上げ、風通しをよくする取組を継続していきたいと思えます。

【同年代・同職種での情報交換】

我が社には、1隻に乗船する船員が7名～8名の船舶が8隻ありますが、職種毎の年齢に差があるので、同年代・同職種の相談相手がいると色々相談しやすいのかなと思い、社内ネットを活用し、先輩には聞けない？仕事上の意見や悩みを打ち明けるフォルダを作成しました。仕事以外の相談も多いのですが、よく利用者されており、新入船員の離職防止にも一役買っているのかなとも思っています。当然ながらその内容は、当事者以外には見る事が出来ないようにしています。



【高齢者とのコミュニケーションの確保】

零細企業であるが故に、人集めがなかなか思うようにいかず、定年者の再任用、また、経験や資格保持の条件となると高齢者の方が派遣会社より来られることもあります。このために船内のコミュニケーションがうまく行かず、航海よりもそっちが気がかりという船長もあります。

雇入契約を行う場合は必ず面接を実施し、健康対策を一番に考え、法定健康診断より詳細な検診を受けていただき、処方薬等ある場合は特に気をつけるようにしています。

乗組員には「加齢による変化」等の文献を配布し、理解するだけでも随分対処が変わってきます。いずれ自分もそうなるのですから。反面、操船術・機器扱いの知見は豊富であり、技術の伝承をお願いするにはもってこいなのです。

若い人には、技術を学ぶことを教えるとともに、高齢者に配慮し、港の情報・配置図等はFAXではなくA3版のカラー印刷で作成し、手渡しをしています。また、その図面には文字を書き込めるスペースを確保し、ヒヤリハットなどを含めた各種情報を書いていただき、後輩達への知見伝授のお願いとしています。

コミュニケーションの取組事例は以下の国土交通省ホームページを参考に掲載しています。

【運輸安全取組事例】

http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html